

「第5回 J.S.Bach クラヴィーア作品全曲連続演奏会」(FFG ホール)

「バッハのみによる「管谷怜子ピアノリサイタル (J.S.バッハ クラヴィーア作品全曲演奏会第5回)」(9月28日、FFGホール)も能動的聴衆しか関心を示すことのないプログラムだったかも知れない。しかし《パルティータ第1番変ロ長調》、《フランス風序曲短調》や弦楽五重奏の伴奏による《ピアノ協奏曲第1番短調》などの管谷のバッハにかけると一途な思いが結晶化した演奏とその必死な姿に、能動的聴衆のみならず会場の多くが感銘を受けた。揺らぎなどとは対極にある好ましい精確さに満ちた演奏でバッハの魅力を再認識させた。」

2012年7月21日 毎日新聞掲載記事より～

「第1回 J.S.Bach クラヴィーア作品全曲連続演奏会」(日時計の丘ホール)

「ピアニストの優れた技術という点に関して、最近もう一つ印象深かったのは管谷怜子のピアニシモである。(中略)管谷のアプローチは圧倒的にモダンな方向で、ダンパーペダルで各音間の区切りの滑らかさを増す繊細なレガート踏法から、特定の音を強調する大胆な共振踏法まで存分に展開し、処理しきる。(中略)無音から薄霧のように浮かび上がる繊細なクレッシェンドは奇跡的な響きであった。」

管谷 怜子(すがや りょうこ)

福岡市出身。福岡音楽学院にて学ぶ。福岡女学院高校、桐朋学園大学ディプロマコース修了。慶應義塾大学文学部(美学美術史学専攻)卒業。桐朋学園大学院大学修了。2000年より現在も世界的ピアニストである野島稔氏のもとで研鑽を積む。これまでにピアノを、小島ひろ子、白川奈緒子、末永博子、安井耕一、田部京子各氏に師事。室内楽を岩崎淑、岩崎洸、藤原洸雄、飯沼信義、新実徳英各氏に師事。

全日本学生音楽コンクール福岡大会第3位。ウィーン音楽コンクール特別賞。日本演奏連盟新人推薦演奏会にて黒岩英臣指揮のもと、ラフマニノフ「バガニーニの主題による狂詩曲」を九州交響楽団と共演。2007年福岡銀行本店ホールにてソリサイタル開催。

2011年にラズモフスキー四重奏団と共演、2012年4月には東京オペラシティ小ホールにて、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第2番を演奏し好評を得る。2012年7月からは、「日時計の丘ホール」にてJ.S.バッハ鍵盤楽器作品の全曲連続演奏会シリーズを始動し、2017年には第10回を迎えた。2016年4月には東京にて初のソリサイタル「現代ピアノで彩るスヴェーリンクからバッハまで」を、那須塩原市にてソリサイタル「バロックからロマン派への華麗なるピアニズムの変遷」を開催し、いずれも好評を博す。

現在は演奏活動のほかに、フリーゲル音楽教室(<http://music.geocities.jp/ryonmoko>)にて後進の指導に当たっている。九州・山ロジュニアピアノコンクール、ドリカム・ピアノコンクール審査員。カコロザ会員。九州大学芸術工学部非常勤講師。



佐々木 世寿(ささき せいじゅ)

山形大学卒業後、チェコ共和国・ブラハ音楽院へ2年間留学し研鑽を積む。桐朋学園大学院大学(修士課程)修了。

全日本芸術コンクールピアノ部門(音大・一般の部)第1位、イタリア・パドヴァ国際音楽コンクールピアノ部門第1位など様々なコンクールで受賞。チェコラジオ放送に演奏を録音し出演。2004年からピアノリサイタルを各地で行い(ブラハ、パドヴァ、仙台、東京、富山、那覇)2015年には東京・オペラシティ小ホールにてベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第4番を演奏。2016年には仙台・パナホールにてスメタナのピアノ作品によるリサイタルを行う。

チェコのピアノ作品をライフワークとして演奏活動を行う傍ら、後進の指導にもあたっている。これまでにピアノを三沢澄子、赤城眞理、伊達華子、田中美穂、河野元、ヤナ・マハラ・チコヴァ、ハヌシュ・バルトン、三上桂子、野島稔の各氏に師事。室内楽を岩崎洸、岩崎淑、藤原洸雄、新実徳英、中井恒仁の各氏に師事。



末永文化センター

〒814-0133 福岡市城南区七隈 1-11-50 (城南中学校前) 電話 (092) 821-3338

博多駅から

・博多駅バスターミナル1階4番乗り場から200番台のバスに乗車(27分)、荒江団地で下車 徒歩3分

天神から

・天神コア前(天神バスセンター前)7-Aバス停より200番台のバスに乗車(18分)、荒江団地で下車 徒歩3分

・地下鉄七隈線天神南駅より乗車(9分)、別府駅下車 徒歩15分、または別府駅下車2番出口 別府駅前(旧別府2丁目)バス停より200番台バス乗車(3分)、荒江団地下車 徒歩3分

※乗車時間はいずれも各交通機関が発表しているもので、交通事情により変動します。念の為に乗車前にご確認の上、余裕を持ってお越し下さい。